



StorageGRID の S3 REST API の処理

StorageGRID

NetApp
October 03, 2025

目次

StorageGRID の S3 REST API の処理	1
GET Bucket consistency 要求を実行します	2
要求例	2
応答	2
応答例	3
PUT Bucket consistency 要求	3
リクエスト	3
要求例	4
GET Bucket last access time 要求	4
要求例	5
応答例	5
PUT Bucket last access time 要求の場合	5
例をリクエストする	6
DELETE Bucket metadata notification configuration 要求	6
要求例	6
GET Bucket metadata notification configuration 要求	7
要求例	7
応答	7
応答例	10
PUT Bucket metadata notification configuration 要求	11
リクエスト	11
例をリクエストする	14
検索統合サービスで生成される JSON	16
メタデータ通知に含まれているオブジェクトメタデータ	17
GET Storage Usage 要求の略	18
要求例	18
応答例	18
バージョン管理	19
従来の準拠のためのバケット要求が廃止されました	19
コンプライアンス機能は廃止されました	19
廃止：準拠のための PUT Bucket 要求の変更	20
廃止予定： GET Bucket compliance 要求	21
廃止予定： PUT Bucket compliance 要求	23

StorageGRID の S3 REST API の処理

StorageGRID システム固有の処理が S3 REST API に追加されています。

- [GET Bucket consistency 要求を実行します](#)

GET Bucket consistency 要求を使用すると、特定のバケットに適用されている整合性レベルを確認できます。

- [PUT Bucket consistency 要求](#)

PUT Bucket consistency 要求を使用すると、バケットで実行される処理に適用する整合性レベルを指定できます。

- [GET Bucket last access time 要求](#)

GET Bucket last access time 要求を使用すると、最終アクセス時間の更新が個々のバケットで有効になっているか無効になっているかを確認できます。

- [PUT Bucket last access time 要求の場合](#)

PUT Bucket last access time 要求を使用すると、最終アクセス時間の更新を個々のバケットで有効または無効にできます。最終アクセス時間の更新を無効にするとパフォーマンスが向上します。バージョン 10.3.0 以降で作成されたバケットに対しては、いずれもデフォルトで無効になります。

- [DELETE Bucket metadata notification configuration 要求](#)

DELETE Bucket metadata notification configuration 要求では、設定 XML を削除することで、個々のバケットで検索統合サービスを無効化できます。

- [GET Bucket metadata notification configuration 要求](#)

GET Bucket metadata notification configuration 要求では、個々のバケットで検索統合を設定するために使用する設定 XML を読み出すことができます。

- [PUT Bucket metadata notification configuration 要求](#)

PUT Bucket metadata notification configuration 要求を使用すると、個々のバケットで検索統合サービスを有効化できます。要求の本文に含めるメタデータ通知設定 XML では、デスティネーション検索インデックスにメタデータを送信するオブジェクトを指定します。

- [GET Storage Usage 要求の略](#)

GET Storage Usage 要求を使用すると、アカウントで使用しているストレージの総容量とアカウントに関連付けられているバケットごとの使用容量を確認できます。

- [従来の準拠のための廃止されたバケット要求](#)

従来の準拠機能で作成されたバケットの管理には、StorageGRID S3 REST API の使用が必要になる場合があります。

GET Bucket consistency 要求を実行します

GET Bucket consistency 要求を使用すると、特定のバケットに適用されている整合性レベルを確認できます。

新たに作成したオブジェクトに対しては、リードアフターライト整合性を保証するようにデフォルトの整合性制御が設定されます。

この処理を完了するには、s3 : GetBucketConsistency 権限または root アカウントが必要です。

要求例

```
GET /bucket?x-ntap-sg-consistency HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>
```

応答

応答 XML では、「<Consistency>」は次のいずれかの値を返します。

整合性制御	説明
すべて	すべてのノードが即座にデータを受け取り、受け取れない場合は要求が失敗します。
strong-global	すべてのサイトのすべてのクライアント要求について、リードアフターライト整合性が保証されます。
strong-site	1つのサイト内のすべてのクライアント要求について、リードアフターライト整合性が保証されます。
read-after-new-write の場合	(デフォルト) 新規オブジェクトにはリードアフターライト整合性を、オブジェクトの更新には結果整合性を提供します。高可用性が確保され、データ保護が保証されます。Amazon S3 の整合性の保証に最も近い機能です。 注：存在しないオブジェクトに対してアプリケーションが HEAD 要求を使用すると、使用できないストレージノードがあると「500 Internal Server Error」が大量に返される可能性があります。これらのエラーを回避するには、Amazon S3 と同様の整合性の保証が必要でない限り、整合性制御を「available」に設定します。

整合性制御	説明
available（HEAD 処理は結果整合性）	「read-after-new-write」整合性レベルと動作は同じですが、HEAD 処理については結果整合性のみを提供します。ストレージ・ノードが使用できない場合、リードアフター・新規ライトよりもヘッド操作の可用性が高くなりますAmazon S3 の整合性と異なるのは HEAD 処理のみです。

応答例

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Fri, 18 Sep 2020 01:02:18 GMT
Connection: CLOSE
Server: StorageGRID/11.5.0
x-amz-request-id: 12345
Content-Length: 127
Content-Type: application/xml

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Consistency xmlns="http://s3.storagegrid.com/doc/2015-02-01/">read-after-
new-write</Consistency>
```

関連情報

[整合性制御](#)

PUT Bucket consistency 要求

PUT Bucket consistency 要求を使用すると、バケットで実行される処理に適用する整合性レベルを指定できます。

新たに作成したオブジェクトに対しては、リードアフターライト整合性を保証するようにデフォルトの整合性制御が設定されます。

この処理を完了するには、s3：PutBucketConsistency 権限または root アカウントが必要です。

リクエスト

x-ntap-sg-consistency パラメータには、次のいずれかの値を指定する必要があります。

整合性制御	説明
すべて	すべてのノードが即座にデータを受け取り、受け取れない場合は要求が失敗します。

整合性制御	説明
strong-global	すべてのサイトのすべてのクライアント要求について、リードアフターライト整合性が保証されます。
strong-site	1つのサイト内のすべてのクライアント要求について、リードアフターライト整合性が保証されます。
read-after-new-write の場合	（デフォルト）新規オブジェクトにはリードアフターライト整合性を、オブジェクトの更新には結果整合性を提供します。高可用性が確保され、データ保護が保証されます。Amazon S3 の整合性の保証に最も近い機能です。 注：存在しないオブジェクトに対してアプリケーションが HEAD 要求を使用すると、使用できないストレージノードがあると「500 Internal Server Error」が大量に返される可能性があります。これらのエラーを回避するには、Amazon S3 と同様の整合性の保証が必要でない限り、整合性制御を「available」に設定します。
available （HEAD 処理は結果整合性）	「read-after-new-write」整合性レベルと動作は同じですが、HEAD 処理については結果整合性ののみを提供します。ストレージ・ノードが使用できない場合、リードアフター・新規ライトよりもヘッド操作の可用性が高くなりますAmazon S3 の整合性と異なるのは HEAD 処理のみです。

- 注：* 一般的には、「read-after-new-write」整合性制御値を使用する必要があります。要求が正しく機能しない場合は、可能であればアプリケーションクライアントの動作を変更します。または、API 要求ごとに整合性制御を指定するようにクライアントを設定します。バケットレベルの整合性制御は最後の手段と考えてください。

要求例

```
PUT /bucket?x-ntap-sg-consistency=strong-global HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>
```

関連情報

整合性制御

GET Bucket last access time 要求

GET Bucket last access time 要求を使用すると、最終アクセス時間の更新が個々のバケ

ットで有効になっているか無効になっているかを確認できます。

この処理を完了するには、s3 : GetBucketLastAccessTime 権限または root アカウントが必要です。

要求例

```
GET /bucket?x-ntap-sg-lastaccesstime HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>
```

応答例

次の例では、バケットの最終アクセス時間の更新が有効になっています。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Sat, 29 Nov 2015 01:02:18 GMT
Connection: CLOSE
Server: StorageGRID/10.3.0
x-amz-request-id: 12345
Content-Length: 127
Content-Type: application/xml

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<LastAccessTime xmlns="http://s3.storagegrid.com/doc/2015-02-01/">enabled
</LastAccessTime>
```

PUT Bucket last access time 要求の場合

PUT Bucket last access time 要求を使用すると、最終アクセス時間の更新を個々のバケットで有効または無効にできます。最終アクセス時間の更新を無効にするとパフォーマンスが向上します。バージョン 10.3.0 以降で作成されたバケットに対しては、いずれもデフォルトで無効になります。

この処理を完了するには、バケットの s3 : PutBucketLastAccessTime 権限または root アカウントが必要です。



StorageGRID バージョン 10.3 以降では、すべての新規バケットで最終アクセス時間の更新がデフォルトで無効になります。以前のバージョンの StorageGRID で作成されたバケットにこの新たなデフォルトの動作を適用する場合は、対象となるバケットごとに最終アクセス時間の更新を無効にする必要があります。Tenant Manager またはテナント管理 API の PUT Bucket last access time 要求、* S3 * > * Buckets * > * Change Last Access Setting * チェックボックスを使用して、最終アクセス時間の更新を有効または無効にできます。

バケットで最終アクセス時間の更新が無効になっている場合、バケットの処理の動作は次のようになります。

- GET Object、GET Object ACL、GET Object Tagging、HEAD Object の各要求では、最終アクセス時間が更新されません。オブジェクトは、情報ライフサイクル管理（ILM）評価のキューに追加されません。
- メタデータのみを更新する PUT Object - Copy 要求と PUT Object Tagging 要求では、最終アクセス時間も更新されます。オブジェクトは ILM 評価のキューに追加されます。
- ソースバケットで最終アクセス時間の更新が無効になっている場合は、PUT Object - Copy 要求でソースバケットの最終アクセス時間が更新されません。コピーされたオブジェクトは、ソースバケットの ILM 評価のキューに追加されません。ただし、デスティネーションについては、PUT Object - Copy 要求で常に最終アクセス時間が更新されます。オブジェクトのコピーは、ILM 評価のキューに追加されます。
- Complete Multipart Upload 要求では、最終アクセス時間が更新されます。完了したオブジェクトは、ILM 評価のキューに追加されます。

例をリクエストする

この例では、バケットの最終アクセス時間を有効にしています。

```
PUT /bucket?x-ntap-sg-lastaccesstime=enabled HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>
```

この例では、バケットの最終アクセス時間を無効にしています。

```
PUT /bucket?x-ntap-sg-lastaccesstime=disabled HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>
```

関連情報

[テナントアカウントを使用する](#)

DELETE Bucket metadata notification configuration 要求

DELETE Bucket metadata notification configuration 要求では、設定 XML を削除することで、個々のバケットで検索統合サービスを無効化できます。

この処理を完了するには、バケットの s3 : DeleteBucketMetadataNotification 権限または root アカウントが必要です。

要求例

次の例は、バケットの検索統合サービスを無効にする方法を示しています。

```
DELETE /test1?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>
```

GET Bucket metadata notification configuration 要求

GET Bucket metadata notification configuration 要求では、個々のバケットで検索統合を設定するために使用する設定 XML を読み出すことができます。

この処理を完了するには、s3 : GetBucketMetadataNotification 権限または root アカウントが必要です。

要求例

次の要求は、「bucket」という名前のバケットのメタデータ通知設定を読み出します。

```
GET /bucket?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>
```

応答

応答の本文には、バケットのメタデータ通知設定が含まれます。メタデータ通知設定では、バケットでの検索統合の設定を確認できます。つまり、どのオブジェクトにインデックスが付けられ、そのオブジェクトメタデータがどのエンドポイントに送信されるかを確認できます。

```

<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Rule-1</ID>
    <Status>rule-status</Status>
    <Prefix>key-prefix</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:_region:account-
ID_:domain/_mydomain/myindex/mytype_</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
  <Rule>
    <ID>Rule-2</ID>
    ...
  </Rule>
  ...
</MetadataNotificationConfiguration>

```

各メタデータ通知設定には、1 つ以上のルールが含まれています。各ルールは、環境 がオブジェクトを指定し、StorageGRID がオブジェクトメタデータを送信するデスティネーションを指定します。デスティネーションは、StorageGRID エンドポイントの URN を使用して指定する必要があります。

名前	説明	必須
MetadataNotificationConfiguration のページです	メタデータ通知でオブジェクトとデスティネーションの指定に使用されるルール用のコンテナタグ。 1 つ以上の Rule 要素を含みます。	はい。
ルール	指定したインデックスにメタデータを追加する必要があるオブジェクトを特定するルール用のコンテナタグ。 プレフィックスが重複しているルールは拒否されます。 MetadataNotificationConfiguration 要素に含まれています。	はい。
ID	ルールの一意の識別子。 Rule 要素に含まれています。	いいえ

名前	説明	必須
ステータス	Status には「 Enabled 」または「 Disabled 」を指定できます。無効になっているルールについては操作が実行されません。 Rule 要素に含まれています。	はい。
プレフィックス	プレフィックスと一致するオブジェクトにルールが適用され、そのメタデータが指定したデスティネーションに送信されます。 すべてのオブジェクトを照合するには、空のプレフィックスを指定します。 Rule 要素に含まれています。	はい。
宛先	ルールのデスティネーションのコンテンツタグ。 Rule 要素に含まれています。	はい。

名前	説明	必須
URN	オブジェクトメタデータが送信されるデスティネーションの URN。次のプロパティを持つ StorageGRID エンドポイントの URN を指定する必要があります。 「es」は3番目の要素である必要があります。 - URN の末尾に、メタデータが格納されるインデックスとタイプを、「domain-name/myindex/mytype」の形式で指定する必要があります。 エンドポイントは、Tenant Manager またはテナント管理 API を使用して設定します。形式は次のとおりです。 - arn : aws : es : <i>region</i> : <i>account-ID</i> : domain/mydomain/myindex/mytype` - urn:mysite:es::mydomain/myindex/mytype エンドポイントは設定 XML を送信する前に設定する必要があります。そうしないと、404 エラーで設定が失敗します。 Urn は Destination 要素に含まれています。	はい。

応答例

「<MetadataNotificationConfiguration> </MetadataNotificationConfiguration>」タグの間に含まれる XML は、検索統合エンドポイントとの統合がバケットにどのように設定されているかを示します。この例では、オブジェクトメタデータは、「records」という名前の AWS ドメインでホストされている「current」という名前の Elasticsearch インデックスと「2017」という名前のタイプに送信されます。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Thu, 20 Jul 2017 18:24:05 GMT
Connection: KEEP-ALIVE
Server: StorageGRID/11.0.0
x-amz-request-id: 3832973499
Content-Length: 264
Content-Type: application/xml

<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Rule-1</ID>
    <Status>Enabled</Status>
    <Prefix>2017</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:us-east-
1:33333333:domain/records/current/2017</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
</MetadataNotificationConfiguration>
```

関連情報

[テナントアカウントを使用する](#)

PUT Bucket metadata notification configuration 要求

PUT Bucket metadata notification configuration 要求を使用すると、個々のバケットで検索統合サービスを有効化できます。要求の本文に含めるメタデータ通知設定 XML では、デスティネーション検索インデックスにメタデータを送信するオブジェクトを指定します。

この処理を完了するには、バケットの s3 : PutBucketMetadataNotification 権限または root アカウントが必要です。

リクエスト

要求の本文にメタデータ通知設定が含まれている必要があります。各メタデータ通知設定には、1 つ以上のルールが含まれています。各ルールは、環境 がオブジェクトを指定し、StorageGRID がオブジェクトメタデータを送信するデスティネーションを指定します。

オブジェクトはオブジェクト名のプレフィックスでフィルタリングできます。たとえば、プレフィックスが「/images」であるオブジェクトのメタデータのあるデスティネーションに送信し、プレフィックスが「/videos」であるオブジェクトのメタデータを別のデスティネーションに送信できます。

プレフィックスが重複している設定は無効で、送信時に拒否されます。たとえば、プレフィックスが「test」のオブジェクト用のルールとプレフィックスが「test2」のオブジェクト用のルールを含む設定は許可されません。

デスティネーションは、StorageGRID エンドポイントの URN を使用して指定する必要があります。エンドポイントは、メタデータ通知設定が送信されたときに存在する必要があります。存在しない場合、リクエストは「400 Bad Request」として失敗します。エラーメッセージには、「メタデータ通知（検索）ポリシーを保存できません。指定されたエンドポイント URN は存在しません： *URN*」

```
<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Rule-1</ID>
    <Status>rule-status</Status>
    <Prefix>key-prefix</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:region:account-
ID:domain/mydomain/myindex/mytype</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
  <Rule>
    <ID>Rule-2</ID>
    ...
  </Rule>
  ...
</MetadataNotificationConfiguration>
```

次の表に、メタデータ通知設定 XML の要素を示します。

名前	説明	必須
MetadataNotificationConfiguration のページです	メタデータ通知でオブジェクトとデスティネーションの指定に使用されるルール用のコンテナタグ。 1 つ以上の Rule 要素を含みます。	はい。
ルール	指定したインデックスにメタデータを追加する必要があるオブジェクトを特定するルール用のコンテナタグ。 プレフィックスが重複しているルールは拒否されます。 MetadataNotificationConfiguration 要素に含まれています。	はい。
ID	ルールの一意的識別子。 Rule 要素に含まれています。	いいえ

名前	説明	必須
ステータス	Status には「 Enabled 」または「 Disabled 」を指定できます。無効になっているルールについては操作が実行されません。 Rule 要素に含まれています。	はい。
プレフィックス	プレフィックスと一致するオブジェクトにルールが適用され、そのメタデータが指定したデスティネーションに送信されます。 すべてのオブジェクトを照合するには、空のプレフィックスを指定します。 Rule 要素に含まれています。	はい。
宛先	ルールのデスティネーションのコンテナタグ。 Rule 要素に含まれています。	はい。

名前	説明	必須
URN	オブジェクトメタデータが送信されるデスティネーションの URN。次のプロパティを持つ StorageGRID エンドポイントの URN を指定する必要があります。 • 「es」は3番目の要素である必要があります。 • URN の末尾に、メタデータが格納されるインデックスとタイプを、「domain-name/myindex/mytype」の形式で指定する必要があります。 エンドポイントは、Tenant Manager またはテナント管理 API を使用して設定します。形式は次のとおりです。 • arn : aws : es : region : account-ID : domain/mydomain/myindex/mytype • urn:mysite:es::mydomain/myindex/mytype エンドポイントは設定 XML を送信する前に設定する必要があります。そうしないと、404 エラーで設定が失敗します。 Urn は Destination 要素に含まれています。	はい。

例をリクエストする

次の例は、バケットの検索統合を有効にする方法を示しています。この例では、すべてのオブジェクトのオブジェクトメタデータが同じデスティネーションに送信されます。

```
PUT /test1?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>

<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Rule-1</ID>
    <Status>Enabled</Status>
    <Prefix></Prefix>
    <Destination>
      <Urn>urn:sgws:es:::sgws-notifications/test1/all</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
</MetadataNotificationConfiguration>
```

この例では、プレフィックス「/images」に一致するオブジェクトのオブジェクトメタデータは1つのデスティネーションに送信され、プレフィックス「/videos」に一致するオブジェクトのオブジェクトメタデータは2つ目のデスティネーションに送信されます。

```
PUT /graphics?x-ntap-sg-metadata-notification HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>

<MetadataNotificationConfiguration>
  <Rule>
    <ID>Images-rule</ID>
    <Status>Enabled</Status>
    <Prefix>/images</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:us-east-1:33333333:domain/es-
domain/graphics/imagetype</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
  <Rule>
    <ID>Videos-rule</ID>
    <Status>Enabled</Status>
    <Prefix>/videos</Prefix>
    <Destination>
      <Urn>arn:aws:es:us-west-1:22222222:domain/es-
domain/graphics/videotype</Urn>
    </Destination>
  </Rule>
</MetadataNotificationConfiguration>
```

検索統合サービスで生成される JSON

バケットで検索統合サービスを有効にすると、オブジェクトのメタデータまたはタグの追加、更新、削除が行われるたびに、JSON ドキュメントが生成されてデスティネーションエンドポイントに送信されます。

次の例は、「test」という名前のバケットに「sgws / Tagging .txt」というキーのオブジェクトが作成されたときに生成される JSON を示しています。test バケットはバージョン管理されていないため 'versionId' タグは空です

```
{
  "bucket": "test",
  "key": "SGWS/Tagging.txt",
  "versionId": "",
  "accountId": "86928401983529626822",
  "size": 38,
  "md5": "3d6c7634a85436eee06d43415012855",
  "region": "us-east-1"
  "metadata": {
    "age": "25"
  },
  "tags": {
    "color": "yellow"
  }
}
```

メタデータ通知に含まれているオブジェクトメタデータ

次の表に、検索統合が有効になっている場合にデスティネーションエンドポイントに送信される JSON ドキュメント内のすべてのフィールドを示します。

ドキュメント名には、バケット名、オブジェクト名、バージョン ID（存在する場合）が含まれます。

を入力します	項目名	説明
バケットとオブジェクトの情報	バケット	バケットの名前
バケットとオブジェクトの情報	キーを押します	オブジェクトキーの名前
バケットとオブジェクトの情報	versionId	バージョン管理されたバケット内のオブジェクトのオブジェクトバージョン
バケットとオブジェクトの情報	リージョン	バケットリージョン。たとえば、「us-east-1」と入力します
システムメタデータ	サイズ	HTTP クライアントから認識できるオブジェクトのサイズ（バイト）
システムメタデータ	MD5	オブジェクトのハッシュ
ユーザメタデータ	metadata`key: value`	オブジェクトのすべてのユーザメタデータをキーと値のペアとして格納

を入力します	項目名	説明
タグ	tags key: value	オブジェクトに対して定義されたすべてのオブジェクトタグをキーと値のペアとして使用します

- 注：StorageGRID は、タグとユーザメタデータに対して、文字列または S3 イベント通知として Elasticsearch に日付と番号を渡します。これらの文字列を日付または数値として解釈するように Elasticsearch を設定するには、動的フィールドマッピングおよびマッピング日付形式に関する Elasticsearch の手順に従ってください。検索統合サービスを設定する前に、インデックスの動的フィールドマッピングを有効にする必要があります。ドキュメントにインデックスを付けた後は、インデックス内のドキュメントのフィールドタイプを編集できません。

関連情報

[テナントアカウントを使用する](#)

GET Storage Usage 要求の略

GET Storage Usage 要求を使用すると、アカウントで使用しているストレージの総容量とアカウントに関連付けられているバケットごとの使用容量を確認できます。

アカウントとそのバケットが使用するストレージの容量は、GET Service 要求を変更して「x-ntap-sg-usage」クエリパラメータで確認できます。バケットによるストレージの使用量は、システムで処理される PUT 要求や DELETE 要求とは別に追跡されます。特にシステムの負荷が高い場合などは、使用量の値が要求の処理に基づく想定値と同じになるまでに少し時間がかかることがあります。

デフォルトでは、StorageGRID は strong-global 整合性を使用して、使用状況の情報を取得します。strong-global 整合性が保証されていない場合、StorageGRID は、強いサイトで整合性のある使用状況情報を取得しようとします。

この処理を完了するには、s3 : ListAllMyBuckets 権限または root アカウントが必要です。

要求例

```
GET /?x-ntap-sg-usage HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>
```

応答例

次の例は、2つのバケットに4つのオブジェクトと12バイトのデータが格納されたアカウントです。各バケットには、2つのオブジェクトと6バイトのデータが格納されています。

```
HTTP/1.1 200 OK
Date: Sat, 29 Nov 2015 00:49:05 GMT
Connection: KEEP-ALIVE
Server: StorageGRID/10.2.0
x-amz-request-id: 727237123
Content-Length: 427
Content-Type: application/xml

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<UsageResult xmlns="http://s3.storagegrid.com/doc/2015-02-01">
<CalculationTime>2014-11-19T05:30:11.000000Z</CalculationTime>
<ObjectCount>4</ObjectCount>
<DataBytes>12</DataBytes>
<Buckets>
<Bucket>
<Name>bucket1</Name>
<ObjectCount>2</ObjectCount>
<DataBytes>6</DataBytes>
</Bucket>
<Bucket>
<Name>bucket2</Name>
<ObjectCount>2</ObjectCount>
<DataBytes>6</DataBytes>
</Bucket>
</Buckets>
</UsageResult>
```

バージョン管理

格納されているすべてのオブジェクト・バージョンは '応答の 'ObjectCount' 値と 'DataBytes' 値に影響します
削除マーカーは 'ObjectCount' 合計には追加されません

関連情報

[整合性制御](#)

従来の準拠のためのバケット要求が廃止されました

従来の準拠機能で作成されたバケットの管理には、StorageGRID S3 REST API の使用が必要になる場合があります。

コンプライアンス機能は廃止されました

以前のバージョンの StorageGRID で提供されていた StorageGRID 準拠機能は廃止され、S3 オブジェクトロックに置き換えられました。

グローバル準拠設定を有効にしている場合は、StorageGRID 11.6 でグローバル S3 オブジェクトロック設定が有効になっています。準拠を有効にした新しいバケットは作成できなくなりました。ただし、必要に応じて、StorageGRID S3 REST API を使用して、従来の準拠バケットを管理できます。

- [S3 オブジェクトロックを使用する](#)
- [ILM を使用してオブジェクトを管理する](#)
- ["ネットアップのナレッジベース：StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"](#)

廃止された準拠要求：

- [DEPRECATED - PUT Bucket request modifications for compliance](#)

SGCompliance XML 要素は廃止されました。これまでは、この StorageGRID カスタム要素を PUT Bucket 要求のオプションの XML 要求の本文に含めて準拠バケットを作成できました。

- [DEPRECATED - GET Bucket compliance 要求](#)

GET Bucket compliance 要求は廃止されました。ただし、既存のレガシー準拠バケットに対して現在有効な準拠設定を引き続き確認することができます。

- [DEPRECATED - PUT Bucket compliance 要求](#)

PUT Bucket compliance 要求は廃止されました。ただし、この要求を引き続き使用して、既存のレガシー準拠バケットの準拠設定を変更できます。たとえば、既存のバケットをリーガルホールドの対象にしたり、バケットの保持期間を長くしたりできます。

廃止：準拠のための **PUT Bucket** 要求の変更

SGCompliance XML 要素は廃止されました。これまでは、この StorageGRID カスタム要素を PUT Bucket 要求のオプションの XML 要求の本文に含めて準拠バケットを作成できました。



以前のバージョンの StorageGRID で提供されていた StorageGRID 準拠機能は廃止され、S3 オブジェクトロックに置き換えられました。

[S3 オブジェクトロックを使用する](#)

[ILM を使用してオブジェクトを管理する](#)

["ネットアップのナレッジベース：StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"](#)

準拠を有効にした新しいバケットを作成することはできなくなりました。準拠バケットを新しく作成するために PUT Bucket 要求の変更を使用しようとすると、次のエラーメッセージが返されます。

```
The Compliance feature is deprecated.
Contact your StorageGRID administrator if you need to create new Compliant
buckets.
```

関連情報

[ILM を使用してオブジェクトを管理する](#)

[テナントアカウントを使用する](#)

廃止予定： GET Bucket compliance 要求

GET Bucket compliance 要求は廃止されました。ただし、既存のレガシー準拠バケットに対して現在有効な準拠設定を引き続き確認することができます。



以前のバージョンの StorageGRID で提供されていた StorageGRID 準拠機能は廃止され、S3 オブジェクトロックに置き換えられました。

[S3 オブジェクトロックを使用する](#)

[ILM を使用してオブジェクトを管理する](#)

"ネットアップのナレッジベース： StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"

この処理を完了するには、s3 : GetBucketCompliance 権限または root アカウントが必要です。

要求例

次の要求例では、「mybucket」という名前のバケットの準拠設定を確認できます。

```
GET /mybucket/?x-ntap-sg-compliance HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization string</em>
Host: <em>host</em>
```

応答例

応答 XML には、「<SGCompliance>」によってバケットの有効な準拠設定がリストされます。次の応答例では、バケットの準拠設定が示されており、各オブジェクトはグリッドに取り込まれてから 1 年間（525、600 分）保持されます。このバケットには現在リーガルホールドはありません。各オブジェクトは 1 年後に自動的に削除されます。

```

HTTP/1.1 200 OK
Date: <em>date</em>
Connection: <em>connection</em>
Server: StorageGRID/11.1.0
x-amz-request-id: <em>request ID</em>
Content-Length: <em>length</em>
Content-Type: application/xml

<SGCompliance>
  <RetentionPeriodMinutes>525600</RetentionPeriodMinutes>
  <LegalHold>false</LegalHold>
  <AutoDelete>true</AutoDelete>
</SGCompliance>

```

名前	説明
RetentionPeriodMinutes です	このバケットに追加されたオブジェクトの保持期間を分で指定します。保持期間は、オブジェクトがグリッドに取り込まれたときからの期間です。
LegalHold のようになります	• True : このバケットは、現在リーガルホールドの対象です。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎたあとも、リーガルホールドが解除されるまで削除できません。 • False : このバケットは、現在リーガルホールドの対象ではありません。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎたら削除できます。
自動削除	• True : このバケット内のオブジェクトは、バケットがリーガルホールドの対象である場合を除き、保持期間が過ぎると自動的に削除されます。 • false : このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎても自動的に削除されません。これらのオブジェクトを削除する必要がある場合は、手動で削除する必要があります。

エラー応答

バケットが準拠バケットとして作成されていない場合、応答の HTTP ステータスコードは「404 Not Found」になり、S3 エラーコードは「XNoSuchBucketCompliance」になります。

関連情報

[ILM を使用してオブジェクトを管理する](#)

[テナントアカウントを使用する](#)

廃止予定：PUT Bucket compliance 要求

PUT Bucket compliance 要求は廃止されました。ただし、この要求を引き続き使用して、既存のレガシー準拠バケットの準拠設定を変更できます。たとえば、既存のバケットをリーガルホールドの対象にしたり、バケットの保持期間を長くしたりできます。



以前のバージョンの StorageGRID で提供されていた StorageGRID 準拠機能は廃止され、S3 オブジェクトロックに置き換えられました。

[S3 オブジェクトロックを使用する](#)

[ILM を使用してオブジェクトを管理する](#)

["ネットアップのナレッジベース：StorageGRID 11.5 でレガシー準拠バケットを管理する方法"](#)

この処理を完了するには、s3 : PutBucketCompliance 権限または root アカウントが必要です。

PUT Bucket compliance 要求を発行する際は、準拠設定のすべてのフィールドに値を指定する必要があります。

要求例

次の要求例では、「mybucket」という名前のバケットの準拠設定を変更しています。この例では、「mybucket」内のオブジェクトが、グリッドに取り込まれてから1年ではなく2年間（1,051,200分）保持されます。このバケットにリーガルホールドはありません。各オブジェクトは2年後に自動的に削除されます。

```
PUT /mybucket/?x-ntap-sg-compliance HTTP/1.1
Date: <em>date</em>
Authorization: <em>authorization name</em>
Host: <em>host</em>
Content-Length: 152

<SGCompliance>
  <RetentionPeriodMinutes>1051200</RetentionPeriodMinutes>
  <LegalHold>false</LegalHold>
  <AutoDelete>true</AutoDelete>
</SGCompliance>
```

名前	説明
RetentionPeriodMinutes です	このバケットに追加されたオブジェクトの保持期間を分で指定します。保持期間は、オブジェクトがグリッドに取り込まれたときからの期間です。 • 注意： RetentionPeriodMinutes に新しい値を指定する場合は、バケットの現在の保持期間以上の値を指定する必要があります。設定したバケットの保持期間は、増やすことはできますが減らすことはできません。
LegalHold のようになります	• True：このバケットは、現在リーガルホールドの対象です。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎたあとも、リーガルホールドが解除されるまで削除できません。 • False：このバケットは、現在リーガルホールドの対象ではありません。このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎたら削除できます。
自動削除	• True：このバケット内のオブジェクトは、バケットがリーガルホールドの対象である場合を除き、保持期間が過ぎると自動的に削除されます。 • false：このバケット内のオブジェクトは、保持期間が過ぎても自動的に削除されません。これらのオブジェクトを削除する必要がある場合は、手動で削除する必要があります。

準拠設定の整合性レベル

PUT Bucket compliance 要求によって S3 バケットの準拠設定を更新すると、StorageGRID は、グリッド全体のバケットのメタデータを更新しようとします。デフォルトでは、StorageGRID は * strong-global * 整合性レベルを使用し、バケットのメタデータを含むすべてのデータセンターサイトおよびストレージノードで、変更された準拠設定のリードアフターライト整合性を保証します。

データセンターサイトまたはサイトの複数のストレージノードが利用できないために、StorageGRID が「strong-global」の整合性レベルを保証できない場合、応答の HTTP ステータスコードは「503 Service Unavailable」になります

この応答を受け取った場合は、必要なストレージサービスをできるだけ早く利用可能にするために、グリッド管理者に問い合わせる必要があります。グリッド管理者が各サイトで十分な数のストレージノードを利用可能にできない場合は、テクニカルサポートから、* strong-site * 整合性レベルを強制的に適用することで、失敗した要求を再試行するよう指示される場合があります。



テクニカルサポートから指示があった場合や、このレベルを使用した場合の影響を理解している場合を除き、PUT Bucket compliance で * strong-site * 整合性レベルを強制的に適用することは避けてください。

整合性レベルを * strong-site * に下げると、StorageGRID は、サイト内のクライアント要求に対してのみ、更新された準拠設定のリードアフターライト整合性を保証します。そのため、すべてのサイトおよびスト

レイジノードが利用可能になるまでの間、StorageGRID システムにはこのバケットに対して複数の異なる設定が一時的に存在することになる場合があります。整合性のない設定を使用すると、予期せぬ望ましくない動作が生じる可能性がありますたとえば、あるバケットをリーガルホールドの対象にして、低い整合性レベルを強制的に適用すると、一部のデータセンターサイトでバケットの以前の準拠設定（つまり、リーガルホールドの対象外の状態）が引き続き適用される場合があります。したがって、リーガルホールドの対象と思われるオブジェクトは、保持期間が経過すると、ユーザによって削除される場合と、AutoDelete によって削除される場合があります。

strong-site * 整合性レベルを強制的に適用するには、PUT Bucket compliance 要求を再発行し、以下のように「Consistency-Control」HTTP 要求ヘッダーを含めてください。

```
PUT /mybucket/?x-ntap-sg-compliance HTTP/1.1
Consistency-Control: strong-site
```

エラー応答

- バケットが準拠バケットとして作成されていない場合、応答の HTTP ステータスコードは「404 Not Found」です。
- 要求の「RetentionPeriodMinutes」がバケットの現在の保持期間よりも短い場合、HTTP ステータスコードは「400 Bad Request」になります。

関連情報

[廃止：準拠のための PUT Bucket 要求の変更](#)

[テナントアカウントを使用する](#)

[ILM を使用してオブジェクトを管理する](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。